

平成29年度島根県立農林大学校学校評価

●教育の目的

次代の島根県の農林業をリードする農業者及び林業技術者の養成

●基本方針

- ・高度な農林業技術と専門的知識を習得し、経営管理能力を養う。
- ・広い視野に立って農林業を考え、技術革新、経営改善に積極的に取り組み、新しい農林業を創造する能力を養う。
- ・先見性を持って流動的な社会情勢に対応するための分析力、判断力、行動力を養う。
- ・農林業生産及び農山村社会におけるリーダーとして必要な指導力、企画力、調整力を養う。

●重点目標

- ①意欲ある学生の確保
- ②教育内容の充実、強化と実践力の養成
- ③進路指導の充実と進路意識の高揚

No.1 評価 A:達成した B:概ね達成した C:やや達成していない D:達成していない

評価項目	評価内容	方策又は評価指標	前回の評価結果	今年度の達成状況・実績	評価	次年度の課題と改善策	評価コメント(外部評価委員)
教育目的及び基本方針・重点目標	教育目的及び基本方針・重点目標の職員及び関係者への周知	教育目的、基本方針、重点目標が周知されており、それを意識した取り組みが行われているか。	オープンキャンパス・高校訪問、関係機関会議等で周知を徹底している。	・職員会議で協議、周知している。 ・オープンキャンパス、学校説明会等で、本校の目標を十分に説明している。 ・学生募集要項に専修学校ではないことを記載し、周知を図った。	A	○常に重点目標を意識した取組を行う。	
学校運営	適正で計画的な予算執行	適切な予算執行がされているか。	優先順位をつけて適正に執行している。	・限られた予算の中で、常に必要性、緊急性を考慮しながら執行に努めた。 【総務】緊急性の高いものは本庁協議を行い、新たな予算確保を行うようにした。	A	○次年度予算枠が減少されるため、より効率的な予算執行に努める。	
	情報・課題の共有化	運営会議・スタッフ会議、専攻内打ち合わせ等で情報の共有化が図られているか。	学生指導面での情報は、できる限り早い段階で伝達するようにした。	・朝礼や専攻間での情報共有を徹底している。 【野菜】朝の専攻内打ち合わせ(当日の実習作業内容確認等が中心)の中で共有化を図った。	A	○引き続き情報共有を迅速に行う。	
	個人情報の管理	個人情報等の管理が適切に行われているか。情報漏えいがないか。	学生相談室の活用によるプライバシー保護実施。重要情報のパスワード強化。	・「マイナンバー制度」の取扱規程の見直しを図った。 ・学生のプライバシー保護のため、 学生相談室の活用徹底 。	A	○引き続き個人情報の管理を徹底する。	・情報管理は想定外のリスクに対応できる準備が必要。マニュアル通りの対応で満足せずに個別案件ごとに慎重に配慮していく必要がある。 ・学生の個人情報については、徹底した管理が必要。一方で、進路相談などにあたっては、外部の方に一定レベルの個人情報を提供することも必要であり、画一的に決められない面もある。常にケーススタディーを校内で実施し、情報共有とノウハウの蓄積に努めてほしい。
	職員研修の充実、職員の資質向上(体系的な研修、校内研修)	国、県、農業大学校協議会等の主催研修への派遣は適切に行われているか。校内で必要な研修会が開催されたか。	国研修、農大西日本ブロック研修、県内各種研修会への積極的参加。	・新規着任職員の授業実施研修、若手職員の試験問題作成研修会の実施。 【花き】学生の資格取得指導のため、職員も技能検定等資格を取得した。 【野菜】西日本ブロック研修会への参加。新規採用職員研修の受講。	B	○必要な職員研修については、要望を取り入れながら実施していく。	
情報発信	ホームページ、フェイスブックその他の活用	農大生活、行事、入試情報等計画的に紹介するなど、積極的に農大のPRを行ったか。各専攻毎にホームページ、フェイスブックの更新を月1回以上行ったか。	HPへの「学生の声」毎月更新。「農大の動き」毎月発行。H28年度:ホームページ更新月3回程度、フェイスブック投稿年間73件。	・ホームページ、フェイスブックのトップページ更新。 ・ フェイスブック広告の活用 により、 農林大HPへのアクセス増加(10/11~11/21)(広告掲載前の13.6倍) ・ タブレット端末活用方法検討 (4台:フェイスブック投稿、写真・動画活用、データ保存など)。 ・ホームページ「学生の声」に全学生、年3回掲載。 ・「農大の動き」を毎月発行し、ホームページへ掲載、県内高校、関係機関、法人協会へメール発信。 ・ 「フォトしまね」への女子学生掲載による情報発信(7月:3名) 。 ・ホームページ更新月3回程度、フェイスブック投稿年間 70回以上 。 ・林業では、独自にブログを活用し日々の授業や実習、各種行事の様子を情報発信。 ・専攻毎のホームページ更新やフェイスブック投稿については、取り組みに差がある。 ・ 農林大なんでもQ&A作成(HP掲載) 。	B	○タブレット端末の有効活用を図る。 ○情報発信の担当者を決め、投稿に力を入れていく。 ○学生からの発信、来場者の声などを取り入れる工夫をしていく。	・学生の日常生活が伝わってくる情報が欲しい。林業科以外でもブログでの紹介があったらよい。コメントの担当教官を決めてはいいかがか。手間をかけずに軽いノリで密度を高めて。 ・情報発信には継続性が最も重要。そのことを意識して情報収集体制の整備から取り組んでほしい。 ・高校生を含め、現在の若者はスマホで情報を得ており、情報の見え方などについては、PCではなくスマホでの情報発信を優先することが効果的。 ・誰に向けての情報かターゲットを意識した見せ方をすれば情報にメリハリがつくのでは。 ・ケーブルテレビは全県にネットワークがあるので活用してはどうか。 ・農林大の野菜や果物は評価が高い。簡単な料理レシピなど、学生からの発信もいいのでは。 ・Q&Aは細かな点まで知る事ができ安心できる。 ・農大祭や農林大市場の来場者インタビューを取り入れるとより多くの人の興味をひくのでは。 ・フェイスブックの「いいね」「フォロー」の拡大に努め、更新の頻度を上げてほしい。職員だけでは難しいので、学生にも協力させては。
学生募集	情報提供、説明会、高校訪問、オープンキャンパス、報道機関の利用等	様々な手段を講じて農大の情報提供を行い関心を高めたか。定員以上の応募者があったか。	前年オープンキャンパス4回実施、参加総数73名。高校訪問1回目39校、体験受入に力を入れている。入学試験受験者増加(前年比122%)	・オープンキャンパス4回実施、参加総数47名であった(前年比64%)。 ・高校訪問1回目:41校、2回目:14校、 3回目:8校 、高校ガイダンス参加: 14回 、農業高校との連携会議参加:6回。(特に花き専攻学生募集に力を入れた) ・農林大学生募集・PRチラシを作成し、普及部を通じて地域の生産部会等への働きかけを強化した。 ・林業科への募集を目的とした高校訪問を実施し進路指導担当者の理解を得た(県内15校)。 ・林業科サテライトキャンパス・出前講座を各1回開催し、林業科への入学を促した。 ・農林大概要説明時に DVD(動画・写真)を活用 して視覚的に訴える工夫をした。 ・ 入学試験受験者は減少。(前年比80%)45名→36名	B	○オープンキャンパス実施回数は引き続き4回とする。 ○PR用バウボを作成し、あらゆる場面で活用していく。 ○特に園芸関係の学生募集に力を入れる。	・高校教員の理解を深めるのが第一と考える。就職予定先や農家からの学生へ期待する部分を伝えてみてはどうか。 ・学生への学校紹介動画コンクールを開催すれば面白い作品が集まるのではないかと。 ・一般家庭までは情報が届いていない。新聞にチラシや広告を出すことはできないか。 ・農福連携が進んでいるが、養護学校などの研修も考えてはどうか。

評価項目	評価内容	方策又は評価指標	前回の評価結果	今年度の達成状況・実績	評価	次年度の課題と改善策	評価コメント(外部評価委員)
学習成果 (指導)	学生の基礎学力の定着、授業改善、授業研究、授業を実施するにあたっての共通事項の実践	分かり易い授業が行われたか。学生による授業の肯定的評価が上昇したか。定期的な基礎学力テストが実施され、それに伴うプリント学習の充実が図られたか。	基礎学力は専任職員が対応している。学生による授業評価をフィードバックした。(年2回)	【農業科】 ・学生による授業評価を職員・外部講師へフィードバックしている(年2回)。 ・基礎学力向上のため、 共通課題のテスト(年3回) と補習を専任職員が実施している。 ・学年毎に曜日を決めて 定期的な補習体制(個人別・領域別) を実施(年間指導時間:延べ26日、28時間)。 ・新任職員の 授業参観と試験問題作成研修 の実施。 【林業科】 ・農業科と同じ 共通課題のテスト を実施。 ・試験等で理解が不十分な点があると認められる場合、補習を行うなど学力の定着に努めた。	B	○新聞記事の活用による授業や試験問題の作成研修を取り入れる。 ○市立図書館との連携を図り、読書活動を推進する。	・第一次産業に対する行政施策(国)の変化及びそれぞれの生産現場における動向についての知識の習得が必要では。 ・農業においては、「記録(作業、経営)」が非常に重要。特に、作業の記録による農業の見える化が若い人の意識を大きく変える可能性が高い。スマホを使った作業記録とその分析、さらには経営計画への応用などにも取り組むべき。 ・新聞記事の活用はどのようなものか。どのような新聞を使っているか。 ・9月の鳥取農大との交流(花き専攻)はよい試みなので、今後はより実践的な交流につなげてほしい。 ・ICT利活用のカリキュラムもお願いしたい。 ・花き専攻は入学者に苦戦しているが、「香り」など他ではとれないような資格を取り入れてはどうか。 ・古い機械、設備は魅力ある学校教育に結びつかない。JAからの支援なども必要ではないか。
	栽培から販売までの能力育成、学生の理解度・技術力・管理能力・経営能力の向上、実習の充実	専攻毎に学生に対し自己目標を設定させ定期的に評価できたか。第三者(農家留学等)による学生の評価を有効に活用できたか。	各専攻毎の特色に合わせた実践教育をすすめている。農機メンテナンス研修、卒業前の農機実践研修など実践的技術指導を実施。	【全体】卒業前の 農業機械メンテナンス、操作実践研修 の実施(2月)。 稲作研修 実施(2月)。 ○ 中国四国プロジェクト発表会において、3年連続優秀賞受賞(1月) 。 【有機】学生は実習において担当作物の栽培計画に従い、自ら作業内容を考え実践している。有機栽培で用いる ぼかし肥や踏み込み堆肥の作成 など有機栽培独特の技術も習得した。 【野菜】概ね1年生の6月以降主担当作物を決め、栽培計画の作成、栽培、出荷まで責任をもって行うようにしている。この経験を踏まえ課題を明確化して卒論に取り組むが、 1、2年を通して、縦割りにならないよう担当品目以外にもなるべく幅広く実習 するようにしている。機械作業やハウスの修繕等も極力自分達で行うようにしている。栽培環境を数値化してとらえ、各自が工夫して栽培管理にフィードバックさせるため、27年度から 環境モニタリングシステム を導入した。 【花き】 1・2年生をとおして同一品目で卒論に取り組む 試みを行っており、2年間じっくり栽培に取り組める内容としている。 【果樹】就農後必要になる 養液土耕システムの設計組み立て技術 、ハウスや果樹棚等施設の修繕技術の習得を図った。果樹は収穫までに年数を要することから、作物を育てる心を醸成するために 果菜類の栽培 もさせている。 【肉用牛】学生に肉用牛飼育管理の基礎技術を習得させるとともに、子牛の発育成績や肥育牛の枝肉成績を 分析、評価 させ、飼育管理体系の 改善に向けた手法をチームワークとして実践 。 【林業】機械操作実習では、個々の技術のレベルアップのため、放課後等を活用することにより、 学生個々の操作時間を増やす よう努めた。	B	○スマホ、ICT利活用の方法を検討し、推進を図る。 ○就職先決定後は、それぞれの就職先で即戦力となるような実践的教育を個別に実施する。	
魅力ある教育活動	農家留学、地域農業実習等	学生の成長に資するものになっているか。農家留学・地域農業実習を各専攻4回以上、学校全体で24回以上実施したか。	即戦力の学生が求められるため、短期、長期の体験実習など実践的な学習の強化を図っている。校外学習:学校全体で36回実施。	【全体】 ・農業科全体の校外学習は9回実施。地域農業実習を各専攻とも3回以上実施し、学校全体で34回実施。 ・2年生の約1ヶ月間の農家留学は9月を中心に実施。雇用就農希望先を中心に、先進的な技術を有する農家等を選定し、進路対策に結びつけている。 【有機】専攻独自の課業である 1年生の「地域有機農業体験実習」(5日間) では、有機農業を実践する農家体験を実施し、有機栽培の考え方や、有機栽培技術の基本を学んだ。また地域農業実習では、 サテライト校(有機農業実践農家)などへ出向き 現地事例を学習した(年3回)。 【野菜】地域農業実習として、 自営・雇用就農の卒業生の活躍現場 を中心に3回実施。 【花き】地域農業実習では、農家見学だけでなく 作業実習(きくの作業:年3回) にも取り組んだ。 【果樹】地域農業実習では、 主要品目の産地 を中心に3回実施。 【肉用牛】地域農業実習として5回実施し、その中で 全国和牛能力共進会や肉用牛研究会 といった全国規模の催しも体験し、広い視野を育む取り組みとした。 【林業】 関係機関や森林組合等の協力を得て 体験学習等の実践的な教育を行った(8回)。	A	○校外学習により農林業技術・経営の視野を広げ、実践的な学習ができる環境を整えていく。 ○総合的に学べるカリキュラムの検討と実施	
	担い手育成研修、実践研修、教員研修、森林施業プランナー研修、林業エンジニア研修等	受講者の技術や能力の向上に資することができたか。担い手研修・実践研修受講者の就農率が8割を超えたか。	H28年度社会人研修生9名の就農率89%新たに農福連携研修(指導員研修)を実施(参加者8名)	【社会人研修修了者】担い手育成研修3名、有機実践研修3名、野菜実践研修2名、 研修生就農率100% 。(以下詳細) ○(担い手育成研修)野菜部門で2名、果樹部門で1名が受講中。講義と実践指導で課題解決を図っている。 募集パンフレットをリニューアル した。 ○(有機農業実践研修)研修生3名の受講に対し、計画的に座学及び実習指導を行い、受講生の技術向上及び有機栽培への意識醸成につながったものと考えられる。 ○(野菜実践研修)研修生2名は基礎的内容の座学と実習を実施。研修会数は前年度までの16回と同程度の17回であるが、昨年度までの研修生のアンケート結果や研修効果の向上を考え、 終期を8月末から10月末まで延長 して実施した。定期の研修17回のみならず、養成部門の課業で行う地域農業実習2回、ハウス建設実習(2日間)への参加があったり、研修期間終了後も別途営農相談に来校されるなど、非常に積極的に受講された。 【教員研修】県内 小中高から29名 の参加があり、農林業に関する体験の機会を提供した。 【林業エンジニア研修】林業事業体の要望も踏まえ、既就業者を対象とした研修を実施(5コースに参加者38名)。 【農福連携研修】 障害者施設の指導員を対象とした研修会 を実施した。参加者5名(果樹、野菜)	A	○研修生募集の周知PRを強化し、研修生確保を図る。 ○教員研修を通じて、農の魅力伝える工夫をする。 ○新規就農交流会などへも研修生の参加を促す。	・研修内容及びそれに付随したアフターフォローもより拡大されており、努力を評価したい。教員研修での受講者選定について、戦略性は持っておられるのでしょうか。特に中高の教員に対しては、生徒への直接的な波及効果を得られる受講者選定を期待したい。 ・学生への教育と違い研修は、受講者のニーズが幅広く、対応が難しい面があるが、常に柔軟な姿勢で対応してほしい。 ・地元ケーブルテレビへ研修生募集の番組制作を依頼し、他メディアでの活用など広く周知してはどうか。
資格取得	難関資格試験の合格率向上、営農や就職に有利な資格取得の促進、資格取得特別講座等	学生は資格取得に意欲的か。農業技術検定3級全員合格、2級50%以上合格することができたか。	学生の取得意向を確認し、各種資格を取ろう仕向けている。H28年度:農業技術検定合格率:3級90%、2級31%、1級1名、大特89%、けん引54%、フォークリフ38%、車両系建設機械58%、小型移動式クレーン58%花きの新しい検定科目導入。	【全体】 農業技術検定(3級:90%、2級:18%)、大特74%、けん引62%、フォークリフ60% 。 【有機、野菜、果樹】希望進路に必要な資格の資格取得を推進し、各種資格取得が進んだ。 【花き】 フラワー装飾技能検定2級1名・3級3名合格。色彩検定3級に1名合格 。 【肉用牛】就業に要する各種資格の取得を進め、特に、 削蹄師養成講習会や家畜人工授精師養成講習会 に向けた事前実習を重点的に行った。 【林業】林業に必要な資格は取得できるようカリキュラムを組んでいる。資格取得に必要な知識や技術が不十分な学生に対しては、 個別に補習 し知識や技術の定着を図った。	B	○ステップアップできる資格取得については、入学当初から促していく。 ○雇用先や卒業生からの声を活用していく。 ○資格取得のための実習時間の確保を図る。	・引き続きの努力をお願いしたい。 ・現在の農林業現場では、各種の資格が必要。そのことを強く学生に意識させるためにも、雇用主や担い手農家から必要となる資格やスキルをアピールしてもらうことも効果があるのではないかと。 ・新たにドローンの資格取得を支援しては。

評価項目	評価内容	方策又は評価指標	前回の評価結果	今年度の達成状況・実績	評価	次年度の課題と改善策	評価コメント(外部評価委員)
就農・就業支援(進路指導)	学生の進路に対する意識の醸成、動機づけの早期化、面談、アンケート、就農ガイダンス、就職セミナー	1年次後半の進路目標決定がされたか。多数の求人情報の収集がされたか。関係機関への情報提供は十分されたか。自営・雇用を合わせた就農・就業率が50%を超えたか。	1年次後半の進路目標決定を目指し、動機づけの早期化を図っている。普及部、地域再生協、さらには農業法人との連携強化を図っている。H28就農・就業率55%	<p>【全体】</p> <p>6月の就農ガイダンスに38名(73%)の学生が参加。就職セミナーを2回実施(5月、2月)。卒業後の就農状況確認の実施(3ヶ月後及び1年後)。5年間の離農率10%(県平均25%)。林業関係10%。1年次後半に進路目標が決定できるよう早めに面談を行っている。H29就農・就業率98%。</p> <p>【各専攻】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年次3月の三者面談を基に、学生との面談の機会を増やし、学生の希望する雇用就農・就業先での短期間のインターンシップや2年次9月の体験学習につなげている。 ・自営就農希望者へは、関係機関と連携し、施設の確保や就農計画樹立等に向け活動。 ・求人情報の提供は積極的に行っている。 	A	<p>○1年のうちから学生面談を複数回実施し、早い段階での進路検討を行う。</p> <p>○就農・就業へ結びつようなインターンシップを早い段階から実施する。</p>	<p>・受け入れ先(業界)等との意思疎通・連携強化が重要と考える。</p> <p>・就業までには、多くの時間が必要。1年生の早い時期からマッチングに取り組むことが効果的である。併せて、平日頃から就業先である法人等とつながりを持っておくことが重要。</p> <p>・就農、就業への定着率が高い。今後とも丁寧な面談やフォローアップに力を入れ卒業後も学べる場づくりを進めてほしい。</p>
学生指導	寮の自主的運営、農大祭等	学生が寮の運営を自分のこととして考えられているか。農大祭に学生が自主的に関わることができたか。	寮の一斉清掃日を定めているが、不十分。自治会、農大祭や中国ブロックの集いなどで自主的な運営がみられるようになった。	<p>・「整理整頓は生活の基本」を掲げ、寮清掃(月曜日昼休み)、専攻清掃(金曜日夕方)を徹底しているが、ごみの分別が徹底できていない。</p> <p>・農大祭や農林大市場などのイベントで、積極的な運営が見られるようになった。</p>	B	<p>○入学当初からごみ分別指導徹底</p> <p>○日常的に「あいさつ、時間厳守、整理整頓等マナーの徹底」による資質向上を図っていく。</p>	
	防災・事故・外部対応等に対する体制の構築及び周知徹底、健康で健全な学生生活	危機管理に対するマニュアルは周知されているか。学生自治会主体の防災訓練が実施されたか。心身が不安定な学生への適切な対応がなされたか。	学生の交通事故発生件数:H28度6件 実習中の事故:2件 女子寮に防犯カメラを設置 定期的に健康相談を実施している。	<p>・「日々の確認事項」を作成し、専攻実習の前後に注意事項を確認、徹底(5月)。</p> <p>・入学当初の交通安全・防犯講習の実施(4月)。</p> <p>・交通事故発生件数:H29年度5件。</p> <p>・実習中の事故・ケガ:6件(蜂2件含む)。</p> <p>・ヒヤリ・ハットの調査、整理、分析、注意喚起の徹底(1~2月)。</p> <p>・防火・避難訓練の実施(本校男子寮、女子寮:4月、飯南寮:1月)。</p> <p>・女子学生対象の防犯・護身術講習会の実施(1月)。</p>	B	<p>○交通安全・防犯・健康維持への意識醸成を徹底する。</p> <p>○ヒヤリ・ハットの確認と分析、対策の徹底。</p> <p>○対応マニュアルの周知、徹底を図る。</p>	<p>・コンプライアンスの遵守は社会生活の根幹となるもの。その重要性について徹底していただきたい。(交通事故の抑制にもつながるのでは)</p> <p>・作業中の病気やケガへの対応は、学生の間だけでなく、就業後も大切な事項。教育的観点からもヒヤリハット分析などに取り組んでほしい。</p> <p>・交通事故、実習中の事故件数「ゼロ」を目指して引き続き努力を。</p> <p>・事故やケガが起こった場合の対応マニュアルも随時作成していくとよいのでは。</p> <p>・ヒヤリハットは紙ベースではなかなか出てこないもので、朝礼後などに報告してもらおうとよいのでは。</p> <p>・農機具には危険がつきもの。一人では作業させないなど口を酸っぱくしてでも注意喚起が必要。</p> <p>・入学当初の健康診断で体重の増や肝機能の数値が高い学生もいるので、スポーツの機会が増えれば改善されるのでは。飲酒、喫煙に対するさらなる意識付けが大切。</p> <p>・社会に順応できるコミュニケーション能力を身につける指導を。</p> <p>・今後は少子化で定員確保も困難となる。安心、安全の視点で女子学生が確保できる努力を。</p>
地域交流	地元小中高との交流、地域活動への参加	地元の保幼小中高の受け入れができたか。地域へ出かけての活動や地域との交流ができたか。	体験受け入れ、花育、食育、地域の催し等、色々な場面で地域交流に取り組んでいる。H28年度:体験受入12回、見学受入7回	<p>【全体】小中高の体験受入れ11回、地域からの見学受入れを7回実施。農大祭(7月)、農林大市場(11月)など農大でのイベント実施。</p> <p>【2年生】大田ローラークラブとの交流による「石見銀山活動」の継続実施。</p> <p>【有機】出雲市で開催されるオーガニックマルシェに4月から12月に毎月参加し、有機農業への理解や消費者交流を積極的に進めた。地元波根文化祭へ参加(11月)。</p> <p>【野菜】地元直売所への出荷などの販売活動や地元柳瀬文化祭へ参加(11月)。</p> <p>【花き】地元保育園児を対象とした花育、地元まちづくりセンター成人学級を対象とした花活の実施。地元小学校1年生を対象に生活科で花栽培と花壇管理の授業を実施。</p> <p>【果樹】地域の消費者を対象にした梨の求評会(食べ比べ)を開催し、消費者へ情報提供するとともに消費者ニーズを把握した。</p> <p>【肉用牛】地元の道の駅でのぎんざん市場(4月)で牛肉対面販売を実施し、消費者との交流を行った。地域農業者との連携で、不作付水田を利用した牛の放牧を実践した。また、牛舎施設は地域の保育園児の散歩コースとなっている。</p> <p>【林業】中山間フェア、赤名湿地の保全活動に参加。飯南寮生は、地域の祭りに参加。海岸林再生植栽活動(出雲市湖陵町:2月)。</p>	A	<p>○食育や花育、木育、「美味しまね認証」等の視点を大切に、引き続き地域交流活動に積極的に参加する。</p>	<p>・地域交流は学生にとって貴重な学習の機会であると思う。その経験において、何をしたかではなく、何を得たかという視点が大切であると考え。引き続き積極的な取り組みをお願いする。</p> <p>・今後も積極的に取り組んでほしい。</p> <p>・卒業生や就職先に協力を求めることができればもっと農林大をアピールできるのでは。今まであまり存在を知られていない地域へ出かけてほしい。</p>
教育環境	圃場・施設・設備の充足度、機械・機器の充足度、維持管理、整理整頓、廃棄	農業機械、施設、機器の適切な管理運営が行われているか。実習棟、機械庫等は整理整頓がされているか。共有機械等の維持管理が適切に行われているか。農場以外の学校用地や施設の維持管理が適切に行われているか。	新繁殖牛舎の建設 本館女子トイレを多機能型のトイレに変更 体育館耐震化工事終了 整備舎の改修工事	<ul style="list-style-type: none"> ・肉用牛専攻女子トイレとシャワー室の分離(7月)。 ・高性能林業機械の更新(7月)。 ・プレハブ女子更衣室の設置(野菜、花き専攻)(11月)。 ・旧肥育牛舎、旧子牛牛舎の解体と飼料保管庫の設置(~2月)。 ・野菜専攻で10月の強風により破損した防風ネット修繕予定(2月)。 ・果樹専攻で12月の強風により破損したハウス等の修繕予定(1~3月)。 <p>○当面の課題</p> <p>【全体】ハウスや機械の修繕等で軽度なものはなるべく専攻の予算や実習の中で行っている。老朽化・経年劣化に伴い、機械、ハウス関連の機器等を中心に故障が増えており、当面は更新を要する事案が集中し、予算的に維持はますます困難になることが予想される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・街路樹、樹木が大木化しているため、伐採が必要 <p>【有機】水田ハゲ干し場の屋根修繕。鉄骨ハウスの側窓付け替え。</p> <p>【野菜】農業保管室の移設予定に伴い、資材・機械庫が手狭となっている。</p> <p>【花き】汲み取り式トイレの改善。</p> <p>【果樹】果樹棚の更新。</p> <p>【肉用牛】プレハブ女子更衣室の腐食が進み、建替えが必要。</p> <p>【林業】スイングヤーダ修繕必要。</p> <p style="text-align: right;">等々</p>	B	<p>○予算等に合わせ、計画的な施設管理に努める。</p> <p>○施設の老朽化が見られ、必要に応じて施設管理者(西部県民センター)と協議しつつ機能維持に努めている。</p>	